

こうどえき
21 神戸駅上り線プラットホーム (大正元年)

みどり市東町神戸878-2他



桐生方面行きのプラットホームで、全長107mです。駅舎側(本線)の擁壁は、間知石による割石積みで、レストラン清流のある側(支線)は玉石(たましい)積みとなっています。駅は、富弘美術館の最寄り駅として利用されるほか、4月には花桃まつりでにぎわいます。

こうどえき きげんひんこ
22 神戸駅危険品庫 (大正元年)

みどり市東町神戸878-2他



引火性のある灯油などの危険物を保管するため、煉瓦で造られました。木造建築の多い神戸駅では目を引きます。耐火性のある煉瓦造りの倉庫は、かつては各駅にありましたが、列車が蒸気機関車からディーゼル車に変わったことや合理化で使われなくなり、多くが取りこわされ、現在では足尾・相老・神戸駅だけに残っています。

そうりえき
23 沢入駅下り線プラットホーム (大正元年) 及び
まちあいしよ
待合所 (昭和2年)

みどり市東町沢入甲962-1他



間藤方面行きのプラットホームです。全長99mで、擁壁は不定形の割石積みです。待合所は「2号」となっていますが、上り線ホームのものより前に建てられたものです。下り線ホームと周辺に整備されたふれあいパークに植えられたアジサイは7月上旬から見頃になり、アジサイまつりが行われます。

そうりえき
24 沢入駅上り線プラットホーム (大正元年) 及び
まちあいしよ
待合所 (昭和4年)

みどり市東町沢入甲965-2他



桐生方面行きのプラットホームです。全長79mで、擁壁は不定形の割石積みです。旧足尾鉄道の開業から現役で使われています。上り線ホームの待合所(1号)は、昭和4年に造られた木造の建物です。

なごし
25 名越トンネル (大正元年)

みどり市東町沢入



沢入駅から下り線で約2分、原向駅から上り線で約6分半で見えはじめます。トンネル両側の入口は、落石から線路とトンネルを守るため造られた落石覆い(おおい)でよく見えませんが、側壁を切石積み、天井を煉瓦積みにしたトンネルで、全長32mです。沢入駅側の落石覆いの一部は古いレールを支柱にしています。

よしのざわ かけひ
26 吉ノ沢架橋 (昭和10年)

みどり市東町沢入



沢入駅から下り線で約4分、原向駅から上り線で約3分半で見えはじめます。ここは沢入みかげと呼ばれる花崗岩(かこうがん)の山肌が線路に迫る場所です。この架橋は、風化した花崗岩が線路に流れ込まないようにするためにかけられた施設です。長さ14mのコンクリートの橋を古いレールの柱で支えています。

かさまつ
27 笠松トンネル (大正元年)

日光市足尾町字片向・みどり市東町沢入字峠向



沢入駅から下り線で約5分半、原向駅から上り線で約2分で見えはじめます。トンネルは全長362mで、入口部分は、アーチ部分を煉瓦積み、側壁部分を切石積みとしています。旧足尾鉄道として建設されたトンネルの中では、最も長いトンネルです。

わたらせがわ きょうりゆう
28 第二渡良瀬川橋梁 (大正元年)

日光市足尾町遠下・小ナギ



原向駅から下り線で約1分半、通洞駅から上り線で約3分で見えはじめます。渡良瀬川を横断する橋で、全長95m。細長い鋼材を三角形につなぐプラットトラス形式です。旧足尾鉄道として建設された橋の中では、最も長い橋です。橋の形式からは、アメリカからの橋梁技術の導入とその国内での発展の歴史が見て取れます。